

平成 25 年度エコ企業調査プロジェクト実施報告書

日時	平成 25 年 12 月 13 日 (金) 12 : 45 ~ 16 : 45	
調査対象企業 (2 社)	①企業名 (住所)	日経東京製作センター川崎工場 (久地 3-16-12)
	企業情報	世界でもっとも進んだ新聞印刷工場のひとつ。都内と京浜地区向けの紙面の製版・印刷・発送を行っている。
	取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・屋上緑化 ・ISO14001 認証取得 ・超々軽量新聞用紙の使用による省資源、CO2 削減 ・ピーク電力抑制 (空調熱源の蓄熱) ・環境報告書の発行 等
	②企業名 (住所)	小学館アカデミー武蔵新城第 2 保育園 (末長 1559-1)
	企業情報	(株)小学館集英社プロダクションが運営する保育園。
	取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・園内に森のビオトープを設置 ・ビオトープを活用した学習 等
参加者	【エコシティたかつ推進会議委員】 伊中委員、笹子委員、山田委員、菱山委員 【事務局】 (企画課) 小島、田島、荒井 (地域振興課) 三門 【コンサルタント】 阿部	

1. 実施内容

【12 : 40 高津区役所発】

- ・エコバス (廃油を活用したバイオディーゼル車) で日経東京製作センター川崎工場まで移動。
- ・車内にて、スケジュール及び調査企業について、事務局荒井より説明。
- ・エコバス及び川崎まちなか油田コンソーシアムについて、伊中委員より説明。



【13 : 10 ~ 15 : 00 日経東京製作センター川崎工場見学】

■ミツヤ氏より日本経済新聞の歴史、川崎工場の概要について説明。

■DVDにて「新聞ができるまで」を観覧。

- ・新聞ができるまでを取材・編集、記事原稿作成、紙面編集及び画像作成、紙面確認、印刷、配送、読者ごとに説明。



- ミツヤ氏の案内で夕刊 4 版の印刷（20 分程度で 15 万部発送）の様子を工場内に入って見学。



- タカハシ氏の案内で屋上緑化を見学。

- ・シバザクラとアゼリアが植えられており、4 月頃が見頃となる。
- ・散水ホースにて水道水を散水している。

- タカハシ氏、工場長・サイトウ氏から地域貢献や環境に関する取り組み等について説明。

①地域貢献

- ・夕方に通学路（府中街道）に警備員を配置し、小学生などが安全に帰宅できるように、配送トラック運転手に声がけをしている。
- ・久地新田町会に加入しており、地域のお祭りのときに、神輿や太鼓の演奏場所を提供するとともに、小学校低学年を対象に飲み物とお菓子のセットを配布している。大人に対してはお神酒を用意している。
- ・平成 25 年 1 月 14 日（月・祝）の大雪の際に通学路の除雪を行った。
- ・川崎市産業観光ツアーの見学対象施設になっている。久地小学校 5 年生が毎年見学に来ている。

②環境に関する取り組みについて

- ・市から敷地面積の 30%以上を緑化しなければいけないと指導があったため、敷地面積の 30.11%の緑地を確保している。
- ・市に毎年「みどりの事業所緑化実績調査報告書」を提出している。
- ・市からもらったゴーヤの種を蒔き、バルコニーに緑のカーテンをつくっている。
- ・府中街道沿いに散水ホースを敷き、夏に散水している。ツツジやサツキなどの低木が萎えてしまうため、定期的に水やりをしている。
- ・原油換算エネルギー使用量の前年度合計量が 1,500 キロリットル以上の事業所が指定される第 1 種エネルギー管理指定工場（特定事業者）に指定され、平成 22～24 年度まで市に「事業活動地球温暖化対策結果報告書」を提出することになっている。平成 23 年度は 1,500 キロリットルより低くなったので、平成 25 年度以降は報告書提出義務がなくなる予定である。

③ISO（国際標準化機構）による管理について

- ・平成 21 年 3 月に ISO14001 を取得し、更新審査を 1 度終えた。
- ・無理、むら、無駄をなくすため、ISO の管理項目は電気の使用、紙の使用、廃棄物の発生、新聞用紙の使用の 4 本柱となっている。
- ・今年 1 月から 11 月まで全ての月で前年度より CO2 を削減することができた。電力量も CO2 同様に削減できた。

■質疑応答

Q 1 : 新聞紙の紙を軽くした（超々軽量新聞用紙を採用した）という話があったが、それによってCO₂換算でどれくらいエネルギーを削減できたか。

A 1 : 紙を軽くしたことにより、トラックや配達用のバイクの燃費が安くなったと思うが、効果については数値算定したことがない。
紙の減量は40ページから48ページ印刷体制に変更する際に行った。ページ増による新聞配送時の負担を考えてのことだった。

Q 2 : 雨水流出についてどのような取り組みを行っているか。

A 2 : 敷地内の雨水は雨水貯留槽に貯めている。再利用はしていない。
敷地内に電気マンホールが10ヶ所程度あり、雨が降ると雨水がたまってしまうため、垂直ポンプを使って雨水を取り出し、植栽の水やりに使っている。

Q 3 : 屋上緑化部分は水道水による散水だが、屋上緑化部分以外にも場所があるので、その場所を利用して雨水利用を考えてはどうか。

A 3 : 以前太陽光パネルを設置するという話もあったが、それらを設置する躯体構造になっていない。また、改修費用もかかってしまうので、現段階では考えていない。

Q 4 : 屋上緑化でシバザクラを採用した理由はあるか。観光でもPRに使われるシバザクラだけに屋上では誰も楽しめない。

A 4 : 土の深さが20~30cmしかとれないので、その環境に対応し、美観的にも良く、強いものとしてシバザクラが採用されたのだと思う。植栽の種類については市との協議で決まったようだ。

Q 5 : 工場から汚水は発生しないのか。

A 5 : 汚水は工場から出る水、トイレから出る水があるが、浄化装置を3ヶ所設け、オйлトラックのフィルターでこしたものを下水道に流している。下水処理場への負担は少ないと思う。

Q 6 : 電気の中でもどの部分を削減すると、CO₂排出量に大きく影響するか。

A 6 : CO₂排出量は電気使用量に排出係数を乗じて算定したものを使っているため、電気使用料に比例してCO₂排出量が増減する。

オール電化工場なので、工場の環境を維持しながら、新聞の質を落とさず、いかに電気使用量を削減するかがポイント。

空調関係の電気量がCO₂排出量の削減に大きく影響する。電力量は建物系と製作系の動力で7:3である。冷凍機、空調機、給湯設備、コンプレッサーが7割を占めている。その中でも空調機の負荷を減らすことにより、動力源である冷凍機の負荷も減らし、CO₂削減に結びつけることができた。

始業開始を10時とすると、これまでは30分前に電源を入れ、紙にとって理想の環境（温度25℃、湿度50%）をつくるのが一般的だが、現在は定時ぎりぎりに電源を入れている。月や年単位で見ると大きな削減につながる。また、400Wで40本強ある水銀灯についても、新聞印刷に支障がないか試行し、支障がなかったため、消灯している。

【15：00 日経東京製作センター川崎工場発】

- ・エコバスで小学館アカデミー武蔵新城第2 保育園まで移動。

【15：20～16：00 小学館アカデミー武蔵新城第2 保育園見学】

- 小学館集英社プロダクション（保育園の運営会社）総合保育事業部・武川氏他1名、小学館アカデミーむさししんじょう第2 保育園・増田園長の案内で森のビオトープ、園内の様子を見学。



【16：15 高津区役所着】

- ・エコバスで区役所まで移動。

以 上